新年のご挨拶

（医）盛翔会
理事長　澤田　健

新年あけましておめでとうございます。

この2年間、世界中がCovid-19感染対策に明け暮れ、全ての人々が不自由な生活を強いられてきました。そんな中でしたが、昨年はどうにか東京オリンピックも（賛否両論あれど）完遂となり、ワクチンの効果と感染予防習慣の浸透により、状況は現時点で収束傾向にあるようです。

一方、諸外国では依然として流行の最中にあり、昨年11月にはオミクロン株が新たな変異株として報告されました。変異箇所の多い本株に対しては、既存のワクチンの有効性についても懸念されています。ウイルスは毒性が強いほど宿主から他者への感染機会が限定されるため、時間が経てば変異株は弱毒化していくものでしたが、本株もそうであってほしいものです。感染対策に努める日々が続いていますが、不自由なく活動できる社会に一刻も早く戻れるよう願っています。

さて、当院の話ですが、昨年9月に竹内医師が院長に就任しました。自ら先頭に立ち、地域医療に熱意をもって取り組んでいただいており、病棟にも活気があふれています。より一層、必要とされる病院をめざして、職員一丸となって力を尽くしましょう。

２０２２年は寅年、問題点が明確になる年とされています。当院の課題に向き合い、より一層、力を尽くして取り組んでまいります。

今年もどうぞ、よろしくお願いいたします。

院長就任のご挨拶

浜松北病院
院長　竹内　和彦

明けましておめでとうございます。

昨年9月1日に院長に就任いたしました。浜松北病院は1983年に開院して以来、地域に密着した急性期医療・回復期リハビリテーション・慢性期医療を提供してきました。また、デイサービス、訪問看護、在宅介護支援事業も法人事業に設置したことで幅広い医療・介護サービスを提供できるようになり、医療と介護に精通したスタッフが充実しています。

超高齢化社会・多死社会・人口減少が進むわが国は、現在医療介護の大きな転換期にあり、政府は地域包括ケアシステムの構築に踏み切りました。地域包括ケアシステムとは「住み慣れた地域で最期まで」をモットーに在宅介護・在宅医療の推進がその中核となっています。厚生労働省による終末期医療に関するアンケート調査では約6割の人が自宅で人生の最期を迎えることを望んでいました。しかしながら、自宅で終末期を過ごすことを望む人の多くが自宅で最期まで療養することは困難と考えており、その主な理由として「介護してくれる家族への負担」、「症状が急に悪化したときに直ぐ入院できるか不安」が挙げられました。また、在宅医療を提供する側のクリニックの先生方を対象とした「在宅医療に関する医師の困難・負担感についての実態調査」では、約6割の先生方が在宅医療に対する困難・負担感を感じており，その理由は「いざという時に患者を入院させる病院の確保」や「休日や夜間などの診療時間外の往診の対応」でした。

以上のことを踏まえ、浜松北病院は地域包括ケアシステムの一端を担う病院として、在宅医療を受けている患者様に対して、

① 病状の急変時など在宅医療継続困難時の入院ベッドの確保
② 介護者の介護負担軽減や介護継続困難時のためのレスパイト入院
③ クリニックの先生方が担当する訪問診療患者様の急変時や訪問対応不可時の入院受け入れ
④ 施設受け入れ困難な在宅療養患者や独居老人の避難的入院と退院支援

などを提供していきます。

地域医療構想とは、「将来人口推計をもとに病床数を減らし病床の機能分化と連携を進め効率的な医療提供体制を実現する取組み」としています。地域医療構想における浜松北病院の役割としては、医療と介護とのコーディネートを得意とする浜松北病院の特徴を生かし、

① 高度急性期病院からの患者様（高齢者・認知症・癌末期患者など）の転院受け入れ
② 老人施設で病状の悪化などにより施設介護継続が困難となった患者様の入院受け入れ
③ 受け入れ患者のリハビリとＡＤＬ（日常生活動作）・嚥下機能評価に基づいた介護方針の調整

などを積極的に行っていきます。

今後も安心して地域で過ごしていただくための医療・介護サービスを提供できるよう努力していく所存です。

ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

栄養科通信

笑顔の為に

今年は秋が短く、空には冬の重い雲。急に冷え込みが強まりました。お身体は大丈夫でしょうか。朝方は布団から出られなくなり、ずっと寝ていたい…と思う今日この頃です。

2021年もあっという間でしたね。どの報道でも「コロナ」のワードが見え隠れしていましたが、オリンピックも無事開催。招致プレゼンで〝おもてなし〟を掲げていただけあって、『海外選手は、日本人の何気ない行動で温かみを感じた…』とのニュースを拝見し、おもてなし文化の日本に生まれて良かったな…と感じました。

料理の世界にもこの文化が生きています。鍋物やおでんが嬉しい季節ですが、それに欠かせないのが大根。下処理の際「米のとぎ汁（米ぬか）で下煮し茹でこぼす」というものがあります。大根のアクやえぐ味を取り除き、煮崩れずれを防止し軟らかくする。おまけに白く美しく仕上げる事ができるのです。手間と時間はかかりますが、料理の完成度が格段にUPします。ところが最近、上に書いた下処理を無駄と考える方も増えてきました。「大根の品種改良が進み、色白でアクも少ないから…」というのが理由のようです。便利になったと思う反面、どこか寂しくも感じます。

調理する側の思いは『少しでも美味しい物を召し上がっていただこう』なのに、品種改良を理由に下処理を省いてしまうのは、相手（食べ手）への気持ちも省いてしまうようで抵抗があります。実際のところ、下処理を行った方が美味しく仕上がるため、省くべきではないかと。日本料理には、他にも〝面取り〟〝隠し包丁〟…と美味しくする技法が沢山あります。食べる側に立った時、その思いやり（技）に気付ける人だったら素敵ですね。

2022年　笑顔の絶えない一年になりますように。
笑顔にするには美味しい物を。おせちに飽きたら、鍋料理はいかがですか？（〆にはお餅も投入）勿論ひと手間は惜しまずに。

食べる側は、その思いやりに気付いて褒めちゃいましょう。みんな笑顔になりますよ。

管理栄養士　青山

※ 今週の職場紹介はお休みです

お知らせ

インフルエンザ予防接種について

例年と比べてワクチンの供給量が少なく、一時は予約受付を停止していましたが、現在は在庫があれば接種を受けることができます。

ご希望の場合、まずお電話でお問い合わせください。

お問い合わせ　　４３５－１１１１（代）
営業時間　　平日　９：00～17：00

・接種費用（税込）

浜松市在住の６５歳以上	1,600円
高校生以上	4,500円

※ すべて1回接種です

〒431－3113
静岡県 浜松市 東区 大瀬町1568
TEL （053）－435－1111
FAX （053）－433－2700
Webページはこちら（QRコード）>>

盛翔会だより

翔き

はばた

2022
新年号
No. 64

本年もよろしくお願いいたします